



## 平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年1月26日

上場取引所 東 大

上場会社名 エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社  
コード番号 8242 URL <http://www.h2o-retailing.co.jp/>

代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 若林 純

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員 (氏名) 森 忠嗣

TEL 06-6365-8120

四半期報告書提出予定日 平成24年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	377,242	8.4	8,376	△7.7	8,913	△9.9	1,567	△65.0
23年3月期第3四半期	347,887	△2.7	9,070	32.0	9,898	16.6	4,479	20.5

(注) 包括利益 24年3月期第3四半期 2,594百万円 (—%) 23年3月期第3四半期 227百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	8.55	8.10
23年3月期第3四半期	21.71	19.74

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円		百万円		%
24年3月期第3四半期	339,838		152,800		44.5
23年3月期	344,187		151,437		43.9

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 151,355百万円 23年3月期 151,144百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	6.25	—	6.25	12.50
24年3月期	—	6.25	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	6.25	12.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	503,500	8.3	9,300	△11.9	9,800	△12.6	900	△71.1	4.91

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

#### 4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

24年3月期3Q	206,740,777 株	23年3月期	206,740,777 株
----------	---------------	--------	---------------

② 期末自己株式数

24年3月期3Q	33,318,822 株	23年3月期	450,757 株
----------	--------------	--------	-----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年3月期3Q	183,283,960 株	23年3月期3Q	206,308,954 株
----------	---------------	----------	---------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載の連結業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付書類]P.4「1.(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	4
2. サマリー情報(その他)に関する事項 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	8
四半期連結損益計算書 .....	8
四半期連結包括利益計算書 .....	9
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	10
(4) セグメント情報等 .....	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	12
4. 補足情報	
株式会社阪急阪神百貨店の業績について .....	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、百貨店事業において昨年3月に博多阪急や阪急百貨店 大井食品館を出店したことに加え、昨年4月に宅配事業を行う株式会社エブリデイ・ドット・コム（現 株式会社阪急オレンジライフ）を、昨年9月に関西商圏を中心にそば・うどん等の外食事業を営む株式会社家族亭をそれぞれ子会社化したことにより、前年同期比108.4%と増収となりました。一方、営業利益・経常利益は出店に伴うコスト増により減益とはなりましたが、大阪・梅田における同業他社の増床・新規出店による影響が想定内で収まったこともあり、予想を上回る結果となりました。なお、四半期純利益につきましては、百貨店事業において人事制度改編に伴う特別損失を計上したことから、減益となりました。

《連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	377,242	108.4
営業利益	8,376	92.3
経常利益	8,913	90.1
四半期純利益	1,567	35.0

各セグメントの概況は次の通りです。

【百貨店事業】

大阪・梅田では、建て替え工事により阪急うめだ本店の営業面積が縮小している中、競合他社による出店・増床が相次ぎました。当社グループでは、その影響を最小限に抑えるべく、昨年春に阪神梅田本店の改装を実施するとともに、阪急・阪神両本店において、ロイヤルカスタマーに向けたアプローチ手法や販促・プロモーションの見直しなど、きめ細かい顧客政策を進めました。その結果、両本店における自社カード顧客の売上高は前年並みで推移し、阪急・阪神両本店をあわせた梅田事業の売上高前年同期比は95.3%となり、期初に想定したほどの影響はありませんでした。

一方、支店におきましては、昨年10月、有楽町阪急をあらたに阪急MEN'S TOKYOとして全面改装し、銀座におけるメンズマーケットの取り込みを図り、順調なスタートを切りました。また、西宮阪急が前年同期比106.9%と引き続き増収となるなど、既存支店の売上高前年同期比は99.3%とほぼ前年並みとなりました。

さらに、昨年3月に開業した博多阪急と阪急百貨店 大井食品館の売上が加わったことにより、百貨店事業の売上高は前年同期比107.4%と増収になりました。

また、営業利益につきましては、新店開業コストの増加などにより減益ながらも、想定を上回りました。

《百貨店事業の業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	281,240	107.4
営業利益	4,755	67.6

【スーパーマーケット事業】

食品スーパーを運営する株式会社阪食では、対面販売の強化など新しいプロトタイプ店舗への転換を進めております。本年度においては既存店舗10店舗を改装し、これらの改装店舗の売上が順調に推移した結果、既存店ベースの売上高前年同期比は99.1%となりました。

また、食品製造子会社におきましても、食品スーパーとの連携の中で生産効率がさらに向上し、食品スーパーと製造をあわせたスーパーマーケット事業の業績は増収増益となりました。

《スーパーマーケット事業の業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	69,261	100.0
営業利益	1,387	103.9

【PM（プロパティマネジメント）事業】

昨年3月に開業した阪急大井町ガーデンにおいて、ビジネスホテル「アワーズイン阪急」がビジネス需要および観光需要の回復とともに稼働率が向上し、施設を運営する株式会社大井開発は増収増益となりました。

その他、商業施設の管理運営を行う株式会社阪急商業開発など5社中4社で営業利益が増加した結果、PM事業の業績は増収増益となりました。

《PM（プロパティマネジメント）事業の業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	9,516	104.9
営業利益	1,285	246.8

【その他事業】

昨年4月、九州で会員制個別宅配事業を行う株式会社エブリデイ・ドット・コム（現 株式会社阪急オレンジライフ）を、昨年9月には株式会社家族亭をそれぞれ子会社化するとともに、10月には首都圏においても宅配事業を開始するなど事業規模の拡大を図りました。また、既存子会社においても19社中13社で営業利益が改善しました。

その一方で、持株会社である当社において、子会社からの受取配当金収入などが減少したこともあり、その他事業の業績は以下の通りとなりました。

《その他事業の業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	17,223	222.9
営業利益	1,744	96.8

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産は339,838百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,348百万円減少しました。これは、設備投資の支払などに伴い流動資産が11,455百万円減少した一方で、株式会社家族亭の子会社化などに伴い固定資産が7,106百万円増加したことによるものです。

負債合計は187,037百万円となり、前連結会計年度末から5,712百万円減少しました。これは、社債の償還に伴い1年内償還予定の社債が19,964百万円減少した一方で、運転資金の調達などに伴い短期借入金が増加した14,120百万円増加したことなどによるものです。

また、純資産は152,800百万円と前連結会計年度末から1,363百万円増加しました。これは利益剰余金が805百万円減少した一方で、株式会社家族亭の子会社化などに伴い少数株主持分が1,152百万円、株式含み益の増加に伴いその他有価証券評価差額金が1,006百万円、それぞれ増加したことなどによるものです。

なお、自己資本比率は44.5%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期は主力の百貨店事業を中心に売上が想定を上回り推移いたしました。この結果を踏まえ、通期業績予想につきましては、連結売上高503,500百万円、営業利益9,300百万円、経常利益9,800百万円にそれぞれ修正いたします。

なお、当期純利益につきましては、神戸阪急の閉鎖に伴う費用などが発生することが予想され、前回発表した予想を据え置いております。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	42,149	15,938
受取手形及び売掛金	18,995	30,779
有価証券	0	101
商品及び製品	14,829	17,150
仕掛品	80	179
原材料及び貯蔵品	687	865
繰延税金資産	4,279	3,469
未収入金	2,702	3,048
その他	2,667	3,420
貸倒引当金	△59	△78
流動資産合計	86,332	74,876
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	65,011	64,203
機械装置及び運搬具（純額）	1,432	1,999
土地	33,948	35,324
建設仮勘定	115	2,149
その他（純額）	6,396	5,873
有形固定資産合計	106,904	109,551
無形固定資産		
のれん	16,037	17,393
その他	7,506	7,968
無形固定資産合計	23,544	25,361
投資その他の資産		
投資有価証券	55,173	56,304
長期貸付金	2,569	2,611
差入保証金	56,248	57,704
繰延税金資産	10,624	10,127
その他	2,897	3,430
貸倒引当金	△105	△128
投資その他の資産合計	127,406	130,048
固定資産合計	257,855	264,962
資産合計	344,187	339,838

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	32,516	43,380
1年内償還予定の社債	20,000	35
短期借入金	—	14,120
1年内返済予定の長期借入金	166	695
未払法人税等	1,692	518
繰延税金負債	3	0
商品券	20,444	21,449
賞与引当金	3,733	2,397
店舗建替損失引当金	1,564	375
店舗閉鎖損失引当金	689	340
資産除去債務	123	284
その他	37,456	28,280
流動負債合計	118,390	111,877
固定負債		
社債	—	52
長期借入金	40,589	41,763
繰延税金負債	7,495	7,224
再評価に係る繰延税金負債	348	310
退職給付引当金	15,806	15,973
役員退職慰労引当金	107	154
商品券等回収引当金	1,770	1,768
長期未払金	1,804	1,566
長期預り保証金	6,268	5,994
資産除去債務	147	222
その他	20	130
固定負債合計	74,359	75,160
負債合計	192,750	187,037



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	17,796	17,796
資本剰余金	37,172	37,172
利益剰余金	96,574	95,769
自己株式	△307	△311
株主資本合計	151,236	150,426
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	379	1,386
土地再評価差額金	42	87
為替換算調整勘定	△514	△544
その他の包括利益累計額合計	△91	928
新株予約権	232	232
少数株主持分	60	1,212
純資産合計	151,437	152,800
負債純資産合計	344,187	339,838

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	347,887	377,242
売上原価	250,869	272,611
売上総利益	97,017	104,630
販売費及び一般管理費	87,946	96,253
営業利益	9,070	8,376
営業外収益		
受取利息	67	61
受取配当金	828	824
諸債務整理益	1,091	1,084
その他	659	557
営業外収益合計	2,646	2,527
営業外費用		
支払利息	305	305
商品券等回収引当金繰入額	820	811
その他	693	873
営業外費用合計	1,818	1,990
経常利益	9,898	8,913
特別利益		
段階取得に係る差益	—	260
資産除去債務戻入益	402	—
移転補償金	240	—
特別利益合計	642	260
特別損失		
人事制度改編に伴う一時費用	—	5,282
店舗建替関連損失	—	280
投資有価証券評価損	103	277
固定資産除却損	274	151
店舗閉鎖損失	1,066	—
環境対策費	304	—
減損損失	302	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	174	—
貸倒引当金繰入額	147	—
新店舗開業費用	144	—
特別損失合計	2,518	5,991
税金等調整前四半期純利益	8,022	3,182
法人税、住民税及び事業税	1,164	927
法人税等調整額	2,406	683
法人税等合計	3,571	1,611
少数株主損益調整前四半期純利益	4,450	1,571
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△28	3
四半期純利益	4,479	1,567

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	4,450	1,571
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△4,102	1,006
土地再評価差額金	—	46
為替換算調整勘定	△121	△30
その他の包括利益合計	△4,223	1,022
四半期包括利益	227	2,594
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	255	2,588
少数株主に係る四半期包括利益	△28	5

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	百貨店 事業	スーパー マーケット 事業	PM事業	その他 事業	計	調整額 (注1)	四半期連 結損益計 算書計上 額(注2)
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	261,842	69,247	9,070	7,726	347,887	—	347,887
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	137	3,507	2,318	11,940	17,903	△17,903	—
計	261,980	72,754	11,388	19,667	365,790	△17,903	347,887
セグメント利益	7,030	1,334	520	1,801	10,687	△1,616	9,070

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,616百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「百貨店事業」セグメントにおいて、収益環境が厳しい一部店舗について、財務健全性向上の視点から減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては300百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準(企業会計基準17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

前第3四半期連結累計期間のセグメント情報を、当第3四半期連結累計期間において用いた報告セグメントの区分方法により区分すると次のようになります。なお、(株)ハートダイニング、(株)阪急製作所、(株)阪急アイウェア、(株)エヌ・ティ・イーは、従来「その他事業」に区分されておりましたが、平成22年4月1日に実施しました事業再編に伴い、第1四半期連結会計期間より「PM事業」に区分変更しており、下記には当該変更を反映しております。

前第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日) (単位:百万円)

	百貨店 事業	スーパー マーケット 事業	PM事業	その他 事業	計	調整額	四半期連 結損益計 算書計上額
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	271,827	67,440	9,580	8,809	357,659	—	357,659
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	172	3,147	2,451	12,553	18,324	△18,324	—
計	272,000	70,588	12,031	21,363	375,983	△18,324	357,659
セグメント利益	5,221	1,024	679	1,950	8,875	△2,002	6,873

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	百貨店 事業	スーパー マーケット 事業	PM事業	その他 事業	計	調整額 (注1)	四半期連 結損益計 算書計上 額(注2)
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	281,240	69,261	9,516	17,223	377,242	—	377,242
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	157	3,553	2,804	11,479	17,993	△17,993	—
計	281,397	72,814	12,320	28,702	395,235	△17,993	377,242
セグメント利益	4,755	1,387	1,285	1,744	9,173	△796	8,376

(注) 1. セグメント利益の調整額△796百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「その他事業」セグメントにおいて、エブリデイ・ドット・コム株式(現阪急オレンジライフ株式)の追加取得による同社の子会社化に伴い、第1四半期連結会計期間より、また、家族亭株式の公開買付けによる同社の子会社化に伴い、第2四半期連結会計期間よりそれぞれのれんを計上しております。なお、第2四半期連結累計期間に未了でありました株式会社家族亭の取得原価の配分が完了し、新たに無形固定資産が認識・評価されたことよりのれんが減少しております。また、株式会社家族亭による中野食品株式の取得による同社の子会社化に伴い、「その他事業」セグメントにおいて、当第3四半期連結会計期間よりのれんを計上しております。これらの事象によるのれんの純増加額は、当第3四半期連結累計期間においては2,080百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

- (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。

4. 補足情報  
株式会社阪急阪神百貨店の業績について

(1) 第3四半期の業績

(単位:百万円)

	平成24年3月期第3四半期実績	
	金額	前年同期比
売上高	280,382	107.4%
売上総利益	69,241	105.8%
その他の営業収入	1,014	103.5%
営業総利益	70,256	105.7%
販売費及び一般管理費	65,084	110.1%
営業利益	5,172	70.4%

(2) 店別売上高

(単位:百万円)

	平成24年3月期第3四半期実績	
	金額	前年同期比
阪急うめだ本店(注)1	95,036	95.2%
千里阪急	13,136	99.5%
堺 北花田阪急	7,600	100.6%
川西阪急	13,769	97.8%
宝塚阪急	6,747	97.1%
西宮阪急	17,173	106.9%
神戸阪急	6,465	94.1%
三田阪急	1,057	96.4%
博多阪急(注)2	27,458	-
阪急MEN'S TOKYO(有楽町阪急)(注)3	6,268	96.2%
阪急百貨店 大井食品館(注)4	3,647	-
都筑阪急	5,784	96.8%
阪神梅田本店	69,166	95.4%
あまがさき阪神	2,777	102.2%
阪神・にしのみや	3,430	97.7%
阪神・御影	742	73.3%
店舗事業計	280,264	107.7%
広域事業	117	14.2%
合計	280,382	107.4%

(注)1 イングス館、メンズ館を含む

(注)2 平成23年3月3日開店

(注)3 平成23年10月15日 有楽町阪急から阪急MEN'S TOKYOとして開店

(注)4 平成23年3月16日開店

(3) 商品別売上高

(単位:百万円)

	平成24年3月期第3四半期実績	
	金額	前年同期比
衣料品	93,010	105.6%
身の回り品	42,344	116.3%
家庭用品	10,112	101.6%
食料品	95,749	110.0%
食堂・喫茶	6,003	99.1%
雑貨	30,012	99.8%
サービス	1,901	86.8%
その他	1,247	103.7%
合計	280,382	107.4%